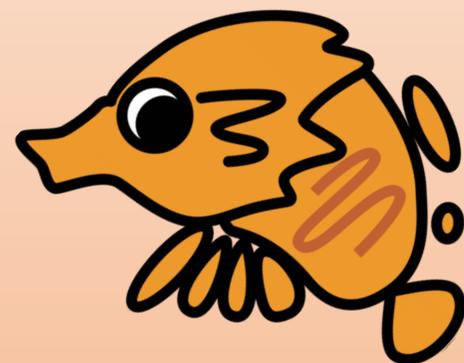


# 令和6年度生活支援体制整備事業 市町村事例発表会



南三陸町地域包括支援センター  
保健師 永沼 直子  
南三陸町社会福祉協議会  
生活支援コーディネーター



芳賀 裕子、千葉 ユミ

# 南三陸町の基本情報

国土交通省 国土院 国土院 国土院



宮城県

人口	11,597 人
65歳以上人口	4,701 人
高齢化率	40.5%
面積	163.4km <sup>2</sup>
日常生活圏域	2圏域
生活支援体制整備事業	2地区
地域包括支援センター	1か所(直営)
認定率	19.4%

R6.8月末時点

南三陸町は宮城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、北は気仙沼市、南は石巻市、西は登米市にそれぞれ接しています。リアス海岸特有の猛々しい風光を有する三陸復興国立公園の一角を形成しています。また、海岸部は日本有数の養殖漁場となっています。気候は、太平洋岸に位置することから、海流の影響もあって夏は涼しく、冬は雪が少なく、比較的温暖な地となっています。

# 南三陸町の目指す姿とは

## 高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画 基本理念・施策目標

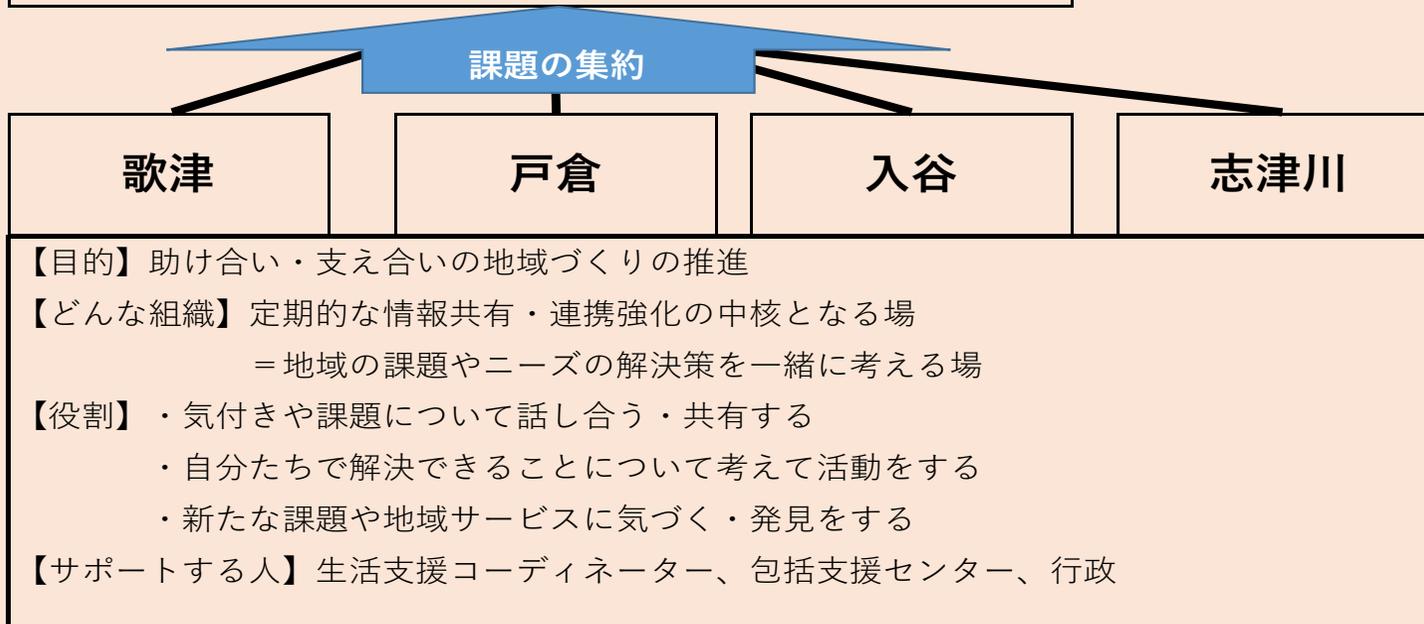
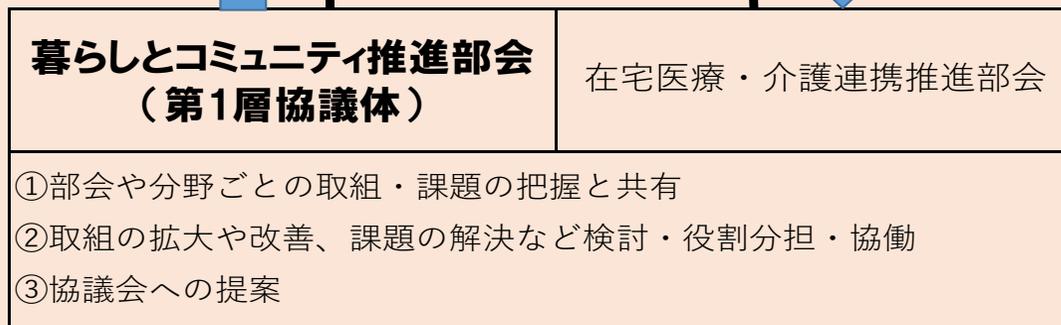
### 基本理念

「すべての高齢者が住み慣れた地域で安心して、生きがいある暮らしを続けられるまち」を共に築く

### 施策目標

- ①住み慣れた地域で生涯にわたり暮らし続けられる「つながりのまちづくり」
- ②元気でいきいきと主体的に活躍する「健康で活動的なまちづくり」
- ③高齢者にやさしい「安心・安全なまちづくり」

# 南三陸町 協議体イメージ図



## ■協議体の主な目的

- ・地域課題について「話し合う」
  - ・サービスや制度を「学ぶ」
  - ・課題の解決策を「提案する」
  - ・顔と顔が見える「関係を作る」
- 2層に分かれて役割分担して進めていく。**

第1層 全町的

第2層 地区毎  
(協議体は未設置)

# 生活支援体制整備事業の取組状況

## 生活支援コーディネーターの配置

- ◆第1層生活支援Co：1人（南三陸町社会福祉協議会へ委託）
- ◆第2層生活支援Co：1人（南三陸町社会福祉協議会へ委託）

## 協議体の設置

- ◆第1層協議体：南三陸町地域包括ケア推進協議会 専門部会である、「暮らしとコミュニティ推進部会」を協議体として位置づけ。
- ◆第2層協議体：未設置  
既存の組織を協議体にできないか検討中。

# 協議体について①

## ●協議体の基盤

- 32団体、行政12課で構成。介護・福祉分野のみならず、多様な機関がメンバーとなっている。
- 構成員については、地域包括ケアシステムを進めるにあたって必要と思われる団体に参画依頼。会の趣旨に賛同し、承諾をいただいた団体が構成員となっている。任期は設けていないが、構成員が所属する団体の人事異動や任期替え等でメンバーの入れ替わりがある。
- 年2～3回の開催

## ●生活支援コーディネーターの関わり

- 顔の見える関係づくり、つながりを切らさない関わり。
- 地域の課題やニーズを把握し、関係者間で情報共有・共に考える。
- 地域の社会資源の情報提供。
- 行政との連携。

## 協議体について②

### ●関係者との連携や働きかけ方

- 構成員とは、つながりを切らさないよう、参加が難しい団体にも協議体で話し合われた内容や成果物等を持って進捗を報告。
- 人事異動や任期替え等でメンバーが変わっても同じ方向を向いて話し合いができるよう、年度初めには協議体の趣旨やこれまでの経過を再確認。

### ●これまでの取組経過

- 平成29年に協議体設置。町の現状や必要な取り組みについて、話し合うことから始めた。声かけ・見守り体制づくりが必要との声があり、認知症サポーター養成講座、高校生と認知症街頭キャンペーンに参加した。  
しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、約2年間協議体の活動は見合わせ、書面で活動報告となる。
- 令和4年度から対面での活動を再開。しかし…

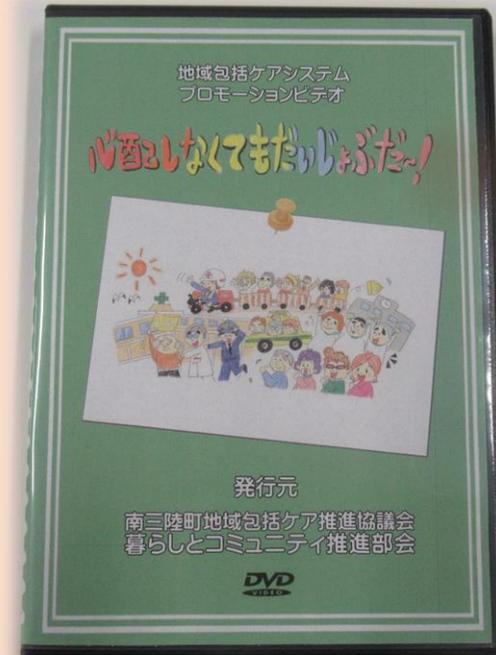
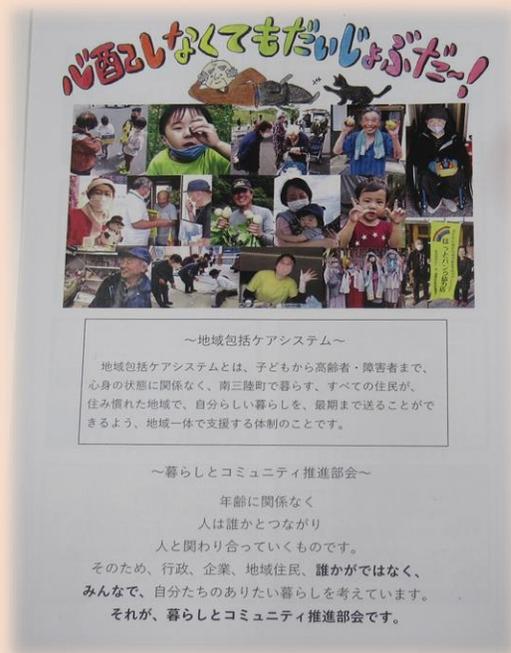
## 協議体について③

- 2年間の活動見合わせ期間中に、進み始めたことがふりだしに戻ったようになり、協議体の進め方に迷いが生じた。
  - ⇒宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議「アドバイザー派遣事業」を活用。
    - 宮城県社会福祉士会 社会福祉士の真壁さおり氏をアドバイザーとして派遣いただく。
    - 協議体の進め方や話し合いのテーマ等についての助言、毎回の部会への参加等。
    - オブザーバーとして、気仙沼保健福祉事務所、宮城県社会福祉協議会も参加いただいている。
- メンバーの入れ替わりもあり、再度自分たちの“ありたい暮らし”について検討。
- 「地域包括ケアシステムと言われてもピンとこない」「何だかわからないことについて何をしたら良いかわからない」等の意見もあった。

# 協議体について④

そこで…

町の様々なサービスや暮らしぶりについて話し合った“ありたい暮らし”を、わかりやすく漫画(地域包括ケアシステム広報ツール)にした。そして更に活用の幅が広がるように、漫画をDVD化。声の吹き込みを協議体のメンバーで行った。





協議体の様子



## 協議体について⑤

### ●進め方や雰囲気

- ・回を重ねるごとに話しやすい雰囲気になっている。初めて部会に参加した方から、「こんなに楽しいことやっているんだね！」と感想をもらった。
- ・最初は意見が言えない方もいたが、会に溶け込み意見を出せるようになった。
- ・会を重ねるごとに一体感が生まれた。
- ・32団体、行政12課が一体的に協議できつつある。
- ・話し合いを重ねる中で、漫画やDVDを作成する等、ひとつの物が形になるという成功体験をみんなで共有できたことは、次に進む足がかりとなった。

これまでの成果や一体感を切らさずに次につなげていく・積み重ねていくことが大切。挫けず、諦めず…

# 南三陸町地域包括ケアシステム広報DVD 「心配しなくてもだいじょぶだ〜!」事例紹介

①4/25ほっとバンク研修会 110名

②5/24デマンド買い物ツアー 23名



③5/24東地区高齢者クラブ  
出前講座 30名



④郵便局

5月より受付前で動画上映中!



- ・職員みんなで視聴しました。
- ・今後、年金支給日から3日間高齢者が多くいらっしゃる時に上映します。



DVDを視聴しての感想

- ・生活の中でこんなに関わる人がいる事を知った。
- ・あんな社会になるといいんだよね。スッと心に入ってきた。
- ・是非、地域の人にも見てもらいたい。
- ・知り合いの民生児童委員へ伝えたよ。

- ・DVDとても分かりやすかった。
- ・漫画も上手で頭に入ってきやすかった。
- ・自分事のようにイメージ出来た。
- ・方言だったから聞きやすかった。
- ・感動した。

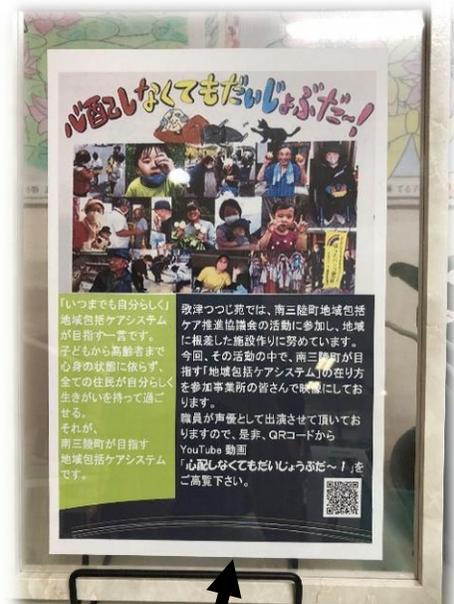
- ・漫画になっている事で動画よりも見やすい。
- ・地域で関わる事の大切を改めて知った。
- ・こんな地域になることが理想だね。
- ・自分の地域にも同じような人がいるから声掛けしようかな。



R6.8月 役場の手続きの待ち時間に



R6.8月 入谷10区いきいき百歳体操にて



R6.9月 中央復興住宅いきいき百歳体操にて



R6.9月 南三陸高校ジュニアインターンシップの一コマで

介護保険施設入口に漫画（冊子）を設置し、動画も見ていただけるようQRコードを載せています。苑だよりも掲載いただきました。

# 協議体の成果

## ●啓発媒体(漫画・DVD)作成後の展開

作って満足(終わり)にならないように、目的をみんなで確認。

- ・何のために作ったのか。
- ・漫画・DVDを活用することでどんな効果が期待できるか。
- ・協議体の構成員みんなで作った広報ツールを使って、地域包括ケアシステムの普及啓発活動を展開中。

→ **自分たちで作ったDVDは愛着があるようです**

- ・DVDを見ながら、「地域包括ケアシステムというと難しいけれど、こういうことなんだね。」「こんな支え合いがあると年をとっても安心だね。」と自然に理解。

構成員から、「DVDを見て、自分たちの役割を改めて理解した」との声もあった。

# 協議体の課題

## ●運営上の悩みや苦労話など…

### 協議体設置から今日に至るまで…

- 制度がわかりにくく、とっつきにくい。
- 協議体の意味がわからない。何をする会議かわからない。何度も同じことを話しているとの声も…
- どこを目指して進んでいくのか見失いそうになる。
- 参加団体の固定化。
- まだまだ行政主導のイメージがあるかも…
- 住民との関わりの中で、困っていることや、こんな仕組みがあったら暮らしやすい・安心ということを話し合い、アイディアを出し、仕組みをつくることだが、住民への押し付けでもなく、行政へのお任せでもない仕組みづくりは、一筋縄ではいかない。

地域包括ケアシステム→地域づくり→果てしない旅・雲をつかむようなもの…

**ショートゴール(小目標)を確実に決めていくこと**

# 今後取組みたいこと

- ① DVDを活用した地域包括ケアシステム普及啓発活動  
⇒より多くの住民が地域包括ケアを理解し、身近な地域での助け合い・支え合いの輪が広がるように。
- ② 地域でよくある困りごとを検討する地域ケア会議  
⇒地域の課題を自分事として考え解決に導くとともに、コミュニティの力を高め、暮らしやすい地域をつくる。

## 担当者の思い

- ・誰かが、どこの部署だけがではなく、みんなで自分たちのありたい暮らしを考えていきたい。
- ・一人で抱え込まず、みんなで話し合う。
- ・失敗を恐れず前に進む。

ご清聴ありがとうございました





地域包括ケアシステム広報ツール  
「心配しなくてもだいじょぶだ〜！」  
につきましては、QRコードからご  
覧ください。



両輪ちゃん